

白川静のことば

《41》



金子都美絵・画

子安貝は性的象徴の意味をもつ呪具である。貝はある場合には生命の象徴であった。特に女子は、首飾りとして貝を通した紐をかけた。嬰・纓がその字である。わが国では「うなぐ」「うながす」とよむ。「吾が頸げる 珠の七條」(分葉・三六五)「濱柔摘む 海人處女らが うなげる 領中も照るがに 手に巻ける 玉もゆららに」(分葉・三三四)あるいは「天なるや 弟たなばたの うながせる 玉のみすまる」(『神代記』)のようにいうが、纓は本来は貝を用いたものであるろう。また貝の形を玉で作ったものもある。農耕儀礼は生殖儀礼と関連の深いものであるから、加・嘉・賀の字形の展開の上にも、そのような観念がはたらいているのである。

天から与えられた恩恵を賚という。来は来妻で作物であり、貝は子安貝であろう。貝が財宝の意とされるのは、子安貝の呪能が一族の繁栄の基礎として尊ばれるからである。生命の連続のために、この両者は最も重要なものであり、ゆえに賚は天の恩寵を意味するのである。

『漢字百話』中公新書 p73～74)

